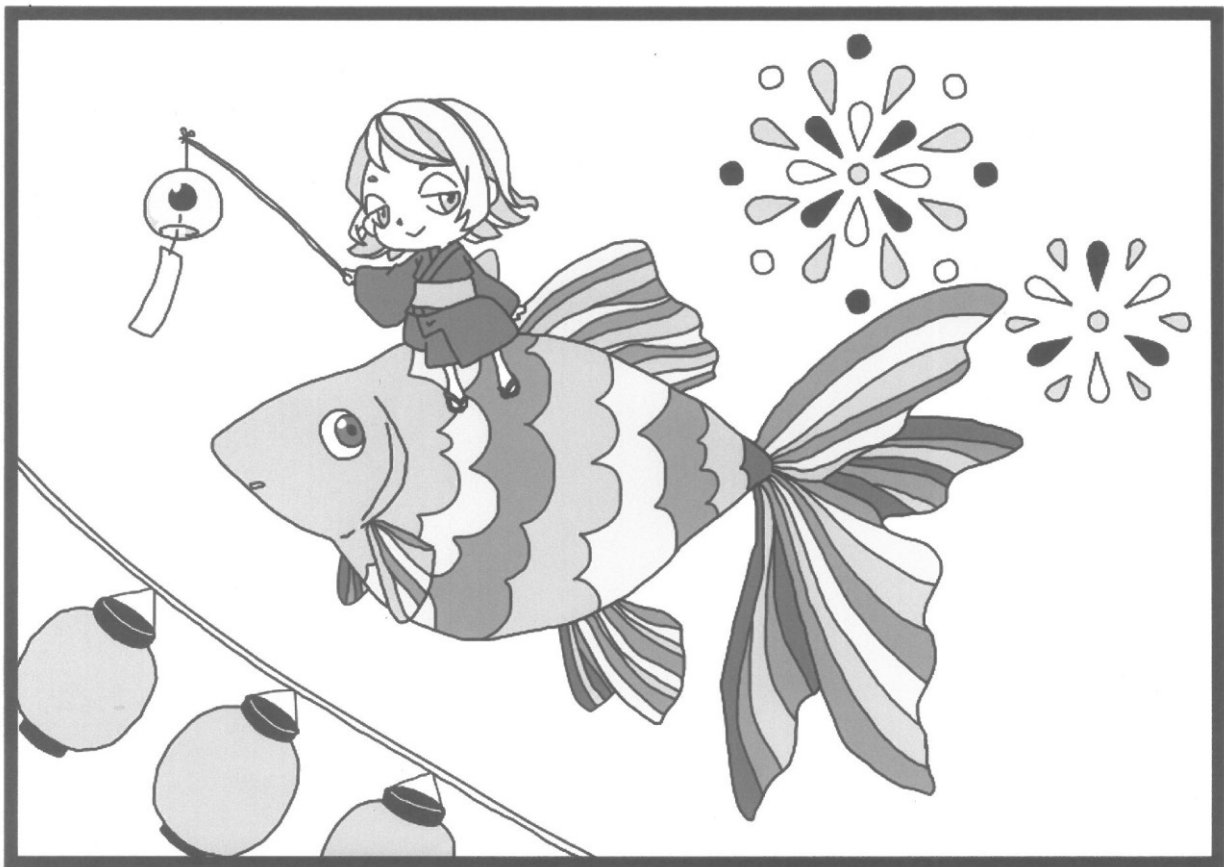


SSKO

社会福祉法人 はらからの家福祉会

われら同胞

NO.60



☆☆☆ 目次 ☆☆☆

- 2 p 「はらからの家 40歳」 ラブ回想、そして…
- 3 p 地域生活支援センター プラッツ
- 4 p グループホーム ピア国分寺
- 5 p さつき共同作業所
- 6 p ネットワーク推進事業部
- 7 p 新職員紹介
- 8 p 賛助会コーナー

「はらからの家40歳」ラフ回想、そして・・・

はらからの家福祉会 理事／総合施設長 伊澤雄一

1981(S56)年4月、国分寺市東恋ヶ窪の地に生まれた「はらからの家」は40歳となりました。「40にして惑わず」とはいうものの、遭遇する数々の状況に戸惑いながらの日々は続いています。

思えば40年前は、地域の支援活動はほぼなく、ましてや精神障害の方々への居住を軸にした支援の実践は皆無に近い状態でしたし、後ろ盾の公的制度もありませんでした。

アパートを部分的に賃借して始まった実践には、精神科病院からの退院先(帰住地)や家族からの自立(巣立ち)、厳しい家庭環境からの解放のための居場所(シェルター)としての求めが多方面から強く寄せられ、激的な支援活動となりました。地元行政からは、「他地域から『要援護者』を招かないように」と、くぎを刺され、某大学関係者からは「西部の荒野に鉄道を敷設しにくい実践」と称されると共に、とある実習生の職員としての採用に際し、過酷さゆえにその就職を阻まれた経緯もありました。

孤立無援ともいえるべき状況の厳しさはありつつも、利用される方々の場を求める切実な想いを真摯に受け、寄り添い、喜怒哀楽を共有させていただき、そしてスタッフも育てていただきました。

次第に対応力をあげ、長期入院の方々の退院先としての機能を強め、その後の地域生活の場面保

障を「さつき共同作業所」(以下さつき)、「グループホーム西恋ヶ窪コーポ」(現国分寺コーポ/以下グループホーム)の創設を通じて展開するなど、支援の総合性を高める一方、地元地域家族会の再興に注力し、「国分寺あゆみ会」の創設をみた経緯です。

そんな実践も16年目に最大の危機に見舞われました。「漏電火災事故」遭遇でした。事業は廃止、被災した方々の生活の場確保を中心とする救援に多くの協力者の方の関わりもいただきましたが奔走するとともに、事業再建に向けた準備を重ねました。そのさなかで味わった事業再建当該地の「揺れる近隣関係(事業軋轢)」は、心身の力を奪う、これも実に大きな危機的局面でした。

なんとか現在地に「ピア国分寺(当時は旧法の福祉ホーム)」と「地域生活支援センタープラッツ」を整備し、組織基盤の確立を社会福祉法人化により果たし、新たなスタートとなったのが1999(H11)年4月でした。その後さつきやグループホームの増設、医療との協働実践を企図した「ネットワーク推進事業(法人独自)」の創設、「東京都地域移行(退院)促進事業」受託など、地域生活支援における総合力の追求は続いています。

なお戸惑いながらの追求の日々ですが、ここまで継続してこれたのは、利用したり、参加したり、賛助したり、担ったりという、実に多くの人々

の『関与』であり、そのつながりや関係性が営みの源泉であることは紛れもない事実です。引き続き多くの方々の、この「はらから物語」の登場人物としてのご臨場をお待ち申し上げます。

さて私事ながら、申し上げました40年の月日を経て、このたびは定年退職の時期を迎えました。今年度をもって一線を退かせていただき、関係している皆様に今後の物語の編纂をお願いしたいと思います。

私どもの役職の後任は、今秋に開催予定の社会福祉法人はらからの家福祉会理事会を経て明らかにさせていただきますので、あらためましてお伝えいたします。

多年にわたり多方面の方々から、ほんとうに様々なご指導、ご鞭撻を賜りました。本紙面をお借りし、慎んで厚く、熱く、力いっぱい御礼を申し上げます。



令和2年度地域生活支援センタープラッツ事業報告

地域生活支援部部長 中野悟

年間利用者状況	<p>① 対応種別</p> <table border="0"> <tr> <td>訪問</td> <td>325件</td> <td>ケースカンファレンス</td> <td>87件</td> </tr> <tr> <td>来所</td> <td>648件</td> <td>関係機関連絡</td> <td>1,488件</td> </tr> <tr> <td>同行</td> <td>68件</td> <td>電話</td> <td>5,811件</td> </tr> <tr> <td>メール</td> <td>1件</td> <td>その他</td> <td>20件</td> </tr> </table> <p>② 来所利用者数 1,782名（*平均来所者数 6.7名 / 日）</p> <p>③ プログラム 参加者数 31名（開催数 12回）</p> <p>④ 宅配弁当手配 201件</p> <p>⑤ ボランティア（実人数5名）プログラム回数 0回 傾聴ボランティア 0回</p> <p>⑥ その他 外部会議 231回 出向・出講 19回 家族会支援 2回 地域イベント（バザー参加） 0回</p>	訪問	325件	ケースカンファレンス	87件	来所	648件	関係機関連絡	1,488件	同行	68件	電話	5,811件	メール	1件	その他	20件
訪問	325件	ケースカンファレンス	87件														
来所	648件	関係機関連絡	1,488件														
同行	68件	電話	5,811件														
メール	1件	その他	20件														
利用者の属性等	<p>1. 利用者総数 268名 地活登録利用メンバー 90名 男性 50名 女性 40名 新規登録 11名 更新 79名 平均年齢 50.2歳</p> <p>2. 指定特定相談支援事業利用者 108名（3/31現在）</p> <p>3. 指定一般相談支援事業利用者 1名（3/31現在）</p> <p>4. 障害者地域移行促進事業 担当圏域（北多摩西部圏域、西多摩圏域） 行政・事業者支援、研修開催、LP（ピアサポーター）活動 など</p>																
職員体制	<p>常勤：伊澤(管理者) 中野(所長) 角谷 毛塚 小野寺 山下 大竹</p> <p>非常勤：山内 保坂</p>																
開館状況	開館日数 266日（一部電話相談のみの開所）																

〈令和2年度振り返り〉

昨年度の振り返りとなるとどうしてもコロナの話になってしまいます。4月に初めて発出された緊急事態宣言により交流室は2ヶ月間閉所となりました。再開後も短時間での利用のお願い、多くのプログラムを中止している状況が今でも続いています。計画相談の新規希望の方は後半になるにつれて増加していきました。やはり年度前半は様子を見られていた方が多かったのだと思います。障害者地域移行促進事業においてもコロナ禍の影響は大きいものでした。ピアサポーターさんとの病院訪問は1年以上できていません。各自治体での協議も多くは止まってしまいました。

物理的な距離、精神的な距離、つながり、そういったことを強く考え続ける1年でした。

〈令和3年度活動展開にあたり〉

まずは今設けている制限を少しずつでも緩くしていくことを考えています。オンラインの活用などプログラムも新たな形を模索しています。一時は減らしていた面接や同行などは注意しながら行っています。病院訪問はまだしばらくできそうにはありませんが、やり取りは継続し今後の動きに備えたいと思います。

難しい状況はまだまだ続くと思われまます。以前と全く同じ形に戻すことも難しいのだと思います。継続できるものはしっかり継続し、変化を恐れずより良いものにしていく。苦しい状況ではありますが、前を向き一歩一歩進んでいきたいと思えます。

令和2年度 ピア国分寺

グループホーム・ショートステイ

居宅支援部部长 作道康介

グループホーム（4ユニット、定員26名）の年度内入退去は、入居者10名、退去者9名でした。退去した方のほとんどはアパートでの単身生活へと移行されましたが、ご家族と同居した方もいらっしゃいました。また、入居についての相談対応を30名の方に行い、複数の方が入居待機者となっております。

特徴的であったのは、若年層の利用です。20代の入居者が増えてきている中、10代の新規入居者が前年度で複数名おり、平均年齢もここ数年で最も低い値となりました。支援体制をこれから整えていく段階で、本人も福祉サービスを受けた経験が少ない場合も多い印象。その中で自分たちも、関わり方の工夫、ニーズの理解に努めながら支援を進めていきたいと思えます。

そして、前年度はやはり新型コロナウイルスの影響を大きく受け、それは現在も続いています。去年の4月から交流会等の入居者が集まるようなプログラムは

全て中止し、個別の対応を基本に。必要な支援とのバランスも取りながら、できる限り感染症対策を講じてきてはいますが、入居者も職員も、不安と緊張の中で取り組んでいる状態が続いています。また入居調整にも影響が出ており、入居予定だったが断念した方が1名、調整がストップしている方が1名、試泊後にキャンセルとなった方が1名いらっしゃいました。

ピア国分寺が東京都から受託している、退院促進を目的として入院患者を主な対象とした「グループホーム活用型ショートステイ事業」については、延べ125日（前年度297日）の利用がありました。こちらも新型コロナウイルスの影響で、利用対象である入院患者さん達が外出禁止となり、入院中の方の利用は前年度の1割ほどにとどまりました。ですが逆に地域の方の利用（再入院を防ぐ等の目的で利用可）が増え、今後の状況を見ながらではありますが、よりいっそう地域の方

のニーズにも対応していけるよう取り組んでいきたいと思えます。

〈令和3年度は…〉

引き続き、新型コロナウイルスへの対応が大きな課題のひとつとなります。入所施設として、入居者やショートステイ利用者の活動も大切にしながら感染予防に努めます。

利用者、職員の安全と安心を確保しながら、こういった状況だからこそ見えてきたより良い支援の形も大切にしながら、前向きに取り組んでいきたいです。



さつき共同作業所 令和2年度事業報告

就労継続支援B型／自立訓練（生活訓練）

通所訓練部部长 作道康介

まず、ご報告があります。長年にわたり当法人の職員として、そしてさつき共同作業所の所長を務めていた橋本佐知子が、このたび退職いたしました。家族の介護の要件が高じて急な退職となり、利用者の皆さま、利用者ご家族の皆さま、関係機関の皆さま、日頃よりご理解とご協力をいただいている皆さまにご心配をおかけして大変申し訳ありませんでした。

そして今後は私、作道康介がグループホームと兼務する形で後任を務めることになりました。この先の法人全体の人事含めた動きの中での暫定的な体制ではありますが、現場職員に支えてもらいながらできる限り支障のないよう努め、さつきの一員として取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

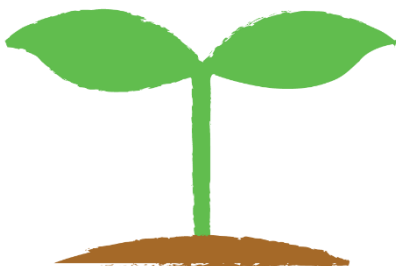
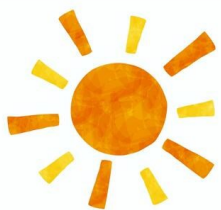


前年度は、さつきにおいても一年を通してコロナ禍における対応が大きなテーマとなりました。4月上旬から室内利用者の人数制限を設け、半日利用を基本として食事も中止、多くのプログラムや、外作業もストップしました。5月から外作業を再開しましたが移動車内の密を避けるために作業員数を減らさざるを得ませんでした。それでもありがたかったのは、作業受託先である国分寺市等からは変わらぬ委託費をいただけて、作業に入られなかった利用者への補償も出すことができました。

新規利用者については、やはりコロナ禍では見合わせる方も多く、見学等の問い合わせも大幅に減少しました。また通所による感染リスクへの不安から、退所の決断を余儀なくされる方も複数名いらっしゃり、利用登録者数も減少いたしました。

それでも、利用者や職員の安心安全を最優先に、感染防止対策を講じながら、この状況でも出来ることはなんなのか、そしてこの状況だから出来ることはなんのかを模索してきた一年であったと思います。

今後も電話連絡やオンラインの活用等の工夫をしながら取り組みの幅を広げ、作業やプログラム、そして居場所として、徐々に元の形を取り戻していけるよう、また新たな形を築いていけるよう、前に進んでいきたいと思っております。



ネットワーク推進事業部 事業報告

ネットワーク推進事業部部長 岡本和子

ネットワーク推進事業部は、障害者自立支援法という様々な福祉サービスの転換期に立ち上がりました。精神の病気や障害を、医療だ福祉だとばらばらに考えず、連携という考えを持つ事、どこにも当てはまらず狭間にあるものに力を注ぎ連携する事といった事業でした。そして社会福祉の目線から精神科クリニックを作ろうとしましたが、社会福祉法人立として認可がおりず、現はらから理事長である藤田が2010年に「国分寺すずかけ心療クリニック」（略称すずかけ）を開業し、ネットワーク推進事業の大きな仕事の1つとして出向することになりました。

① 国分寺すずかけ心療クリニックについて
多職種チームで、行政・医療・保健・福祉・教育・就労等様々な機関の方の力を借り、外来・訪問診療・訪問看護・デイケア・ナイトケア・外来相談等を行っています。

② 「地域ネットワーク多摩（通称ちたま）」（立川・国立・府中・小平・国分寺の福祉・就労・医療等の連携）への積極的参加等、地域生活支援体制整備推進
ちたまもコロナ禍、翻弄されながらも、暫く開催を見合わせた後、広い会場で人数制限をして集まったり、オンラインを使ったり、やれることを探しつつ、繋がっている事だけはしていこうと努力しました。ちたまとして参加したオンラインプログラムの研修も、最終回はオンラインとなり、その後も定期的にオンラインで集まりをもっています。その中にははらからやすずかけでお世話になっている監事の梶氏や福井氏もいて、価値判断を横におく、多様性を大切にしきちんと話を聴く等、本来

〈令和2年度 事業報告〉

令和2年度はコロナ禍、デイケアでは多くの人數で集まることを避け、距離は離れても気持ちは繋がるうとメンバー・スタッフで努力しました。講師もメンバーもスタッフも、当たり前のようにオンライン

等、日常的にご一緒させてもらっています。コロナ禍、又もや蔭山正子氏をお呼びしての講演会が中止になってしまいました。

④ リカバリー支援とピアとの協働、SHARE
認定NPO法人コンボが日本財団より

助成を受け、めだかピクチャーズ撮影により、すずかけを撮影場所とし、SHAREの共同意思決定システムの実際の一部を紹介する動画を作成いたしました。You Tubeにあがっていますので、よろしかったらご覧ください。

※SHAREとは、治療を受ける患者さんの希望とリカバリーの実現を助け、患者さんと主治医とのSDM (Shared decision making: 共同意思決定) を支援するために開発されたコンピューターシステムの愛称です。

⑤ 強迫性障害の普及活動

OCD-Jの活動に参加し、ZOOMのウェビナーを利用し、10月に講演会を開催しました。ZOOMだと、地方からでも家からでも参加できるというメリットがあり、全国から参加頂きました。

〈令和3年度の抱負〉

コロナ禍、皆の健康を第一に考え、つながりを絶やさず進めていきたいと思えます。ネットワーク推進という、医療現場中心ではありませんが、狭間を見て学ばせてもらい、今更なが

ら以下のご感じ、確信しています。

例えばデイケアは、通所訓練、特に就労するための訓練場所と言われます。そして支援者は、指示、指導、訓練をするのが当たり前だと思います。しかし実際は「支援者は安心できる居場所を作り、自分の話したいことを話せる相手になるよう努力し、余計なことを言わず、患者さんが考え行動することを妨げるような事を防ぐサポートをする。それが一番役立つ」と感じています。支援者は「プロクルステスのベッド」よろしく今あるシステムに利用者を入れ込み、説得しがちです。英国社会学者 マイケル・オリバーが「あなたの具合の悪いところはどこですか？」ではなく、「社会の具合の悪いところはどこですか？」と考えましようと言っています。熊谷晋一郎氏が生命のトリアージも大事だけれども、ニードのトリアージをないがしろにする生命をも脅かすと言っています。「まず安心して会話し、ニードを知る。医療・福祉・就労等々、色々な社会資源を、支援者が取捨選択するのはなく、一緒に選び使ってみる。使えるものがなければ共に嘆き、ニードを実現するべく新たな社会資源も作り出す努力をする。そしてそれらをお互いに安心できるプロセスを踏むことに意識する」といった支援を少しでもできるようにしたいと思えます。今後ともご協力をよろしくお願い致します。



新職員紹介

はじめまして。
5月より、地域生活支援センター
ブラッツに配属されました横堀武
志(よこぼりたけし)と申します。

都内で生まれて、小学校卒業と同
時に多摩地域に移住して、東大和市
やあきる野市、東村山市、立川市を
転々としてきました。専門学校を卒
業してから10数年、福祉の現場で
主に知的障害のある方の入所施設
での支援を中心に、相談支援専門員
としても従事していました。縁あつ
てはらからの家福祉会と出会いこ
の度、法人の一員として迎えて頂き
ました。

今まで国分寺の地とは縁がなく、
これから国分寺のことを知りなが
ら、はらからの家福祉会のことにつ
いても日々学んでいきたいと思っ
ます。

何卒宜しくお願い致します。

地域生活支援センターブラッツ

横堀 武志



5月より、さつき共同作業所に非
常勤職員として入職しました竹田
正広(たけだまさひろ)と申します。

2年前に定年退職するまで、印刷
会社で営業の仕事をしており、私生
活においてはアマチュアの20人位
のジャズバンドに入っておりまし
た。そのバンドでは年に1回、チャ
リティジャズ演奏会を開催し、障害
のある方を招待して、演奏を聴いて
いただいていた。その中で、音楽
に反応して、声を出して喜びを表現
したり、身体を動かして踊ったりす
る様子を見ていて、福祉の仕事に携
わりたいと思いました。

今までしてきた仕事を活かしま
ながら、先輩達からの貴重な指導を糧
として勉強し、利用者の方の為に尽
くせる人材になれるように頑張り
ますので宜しくお願い致します。

さつき共同作業所

竹田 正広



初めまして、永井裕(ながいゆた
か)と申します。元水道屋、あちこ
ちガタが来ている55歳です。

7月に入職し、「ピアノ国分寺」に
配属となりました。福祉の仕事です
るようになってから20年余り、主
に精神の分野で、就労Bや相談支援
事業所で働き、利用される方々のお
手伝いをしてきました。この度、縁
あって、はらからの家福祉会で働く
機会を頂けて嬉しく思っています。

趣味は音楽を聴いたり、楽器を触
ったり：ハードロック好き素人ド
ラマーです。ときにはパソコンばら
したり、少し(?)マニアックな面
もあります。

これまでの経験と個性を活かし
つつ、利用者様のより良い地域生活
をお手伝いしたいと思っています。
よろしくお願い致します。

グループホームピアノ国分寺

永井 裕



こんにちは。
砂口美奈子(すなぐちみなこ)と
申します。

6月28日からさつき共同作業所
で非常勤職員として入職し、常勤職
員を目指して働かせていただいで
います。去年3月に通信制大学を卒
業し、4月に精神保健福祉士国家資
格を取得しました。今年の3月まで
別の作業所で働いていました。それ
までは調理や介護など生活にかか
わる仕事をしてきました。

福祉を志したのは、精神障害者の
方の地域生活支援をしたいと思っ
たからです。利用者の方が自分らし
い生活をするため、ともに活動し対
話を重ねて関係性をつくりながら、
支援していきたいです。

利用者の方の幸せを考え、他の職
員さんと協力して安心と希望の場
を創りたいです。未熟者ですがよろ
しくお願いいたします。

さつき共同作業所

砂口 美奈子



はらからの家福社会賛助会コーナー

＜令和2年度8月から11月の間に賛助会費をご納入頂いた皆様（順不同 敬称略）＞

井上 洋子 岡本 公子 小川 好秀 河崎 弘太郎 熊谷 禮子 熊谷 寿子 小峯 尚三
佐藤 久夫 末盛 三枝子 須長 三郎 高田 守 辰田 智子 野々瀬 悟子 萩原 久丸
塚田 ひとみ 服部 洋三 濱野 信一 春口 明朗 峯岸 桂一 真下 加代子
宮城 伸子 松本 紀久代 森 美知子 森田 忠男 森田 林三 山岸 琴美
日本聖公会 立川聖パトリック教会 にしの木クリニック 匿名9名

会員の皆様、本当にありがとうございました。今後ともなにとぞ宜しくお願い致します。

令和2年度はらからの家福社会賛助会決算報告 単位：円

支 出		収 入	
役 務 費	5,170	賛 助 会 費	340,000
郵便手数料	12,486	(64名)	
法人寄付金	300,000		
当期繰越金	30,851	前期繰越金	8,507
合計	348,507	合計	348,507

※郵便振替用紙を同封させていただきましたので、令和3年度賛助会費 何口(1口2千円)でも結構です。お振込みいただくと幸いです。会費をご納入いただいた方のお名前を本紙に掲載させていただいております。匿名希望の場合はその旨通信欄にお書きください。

編集後記

家庭菜園を楽しむ人が増えている
そうです。

トマト、トウモロコシ、西瓜など、
美味しくいただいて、みなさまご健
勝にて夏を乗り越えられますよう
お祈り申し上げます。

編集委員一同



はらからの家福社会ホームページ

<http://harakaranoie.com/>

【編集人】社会福祉法人はらからの家福社会

〒185-0021

東京都国分寺市南町 3-4-4

TEL 042-323-5637

【発行人】障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072

東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102

【定 価】¥120